

平成29年度第1回花見川区区民対話会

花見川区における交通状況と今後の課題

日 時：平成29年9月30日（土）10：00～12：00

場 所：千葉市花見川保健福祉センター3階大会議室

1 開会

2 区長挨拶

3 講和

（1）花見川区における公共交通について（交通政策課）

（2）高齢者の交通事故防止（千葉北警察署）

4 意見交換

5 まとめ

6 閉会

《配付資料》

- ・パワーポイント資料（交通政策課）
- ・パワーポイント資料（千葉北警察署）
- ・運転免許自主返納者に対する優遇措置一覧
- ・ノーカー・アシスト優待証に関するチラシ

《参考資料》

- ・市長マニフェスト及び基本計画の抜粋
- ・運転免許自主返納について
- ・交通安全教室のお知らせ

1 開会

2 区長挨拶

改めまして、おはようございます。花見川区長の芦ヶ谷です。貴重なお休みのところお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

また、各地区連協会長におかれましては、夏祭りから敬老会、また運動会と、本当に地域の支えとしてご活躍いただきまして、本当にありがとうございます。

また、世間では、選挙モードであり、10日が公示で、22日が投開票ということで、くしくも花見川区の一大イベントであります区民まつりと重なってしまうということで、本当にご負担をかけてしまっております。このピンチをチャンスに変えるということで、一致団結して、行政と地域の皆様方と乗り切っていきたいと思います。

さて、本日のテーマは、花見川区の2つの大きな課題である高齢化と交通の問題です。緑区や若葉区も不便だというような声もありますけれども、若葉区についてはモノレールがあり、緑区も京成千原線がありますが、花見川区は市域の外を走っています。花見川区の真ん中あたりにモノレールでもあれば一番いいのかもしれませんが、需要と供給のバランスからいってなかなか難しい。花見川は国道14号からみ春野までは10キロ近くあり、南のほうに京成と総武線が走っているということで、犢橋や天戸、柏井などからは、大和田とか八千代の方へはルートがございますけれども、なかなか中央のほうには行きづらいという環境があるという中で、高齢化が進むに当たって、今はマイカーで自由に動ける方が多いんですけれども、数年後には、ちょっと危ないなというようにお感じになる方も増えてくると思われます。そのときにどうしたらいいのか。自動運転とか、近未来ではAIで動けるということもあるんでしょうけれども、ここ一、二年ではそういうことはないでしょうから、そのときにはどうしたらいいかというと、やはりマイカーに頼らないで公共交通、タクシーとかバスで行くなり、ご近所で乗り合うなどの取り組みもしていかなきゃいけないのかなということで、いきなり解決することは難しいとは思いますが、本日はその大きなテーマを皆さんで共有して、どういう工夫ができるのかを考えたいと思います。

また、今日は民間の企業も何社か呼んでおりますので、今の状況・今後の取り組みなどを報告していただき、情報共有できればと思います。テーマとしては大きいんですけども、大事なことです。今日はあえて交通問題を取り上げたいと思います。

日ごろ皆さまはご不便を感じていて、本当にお困りの部分がたくさんあると思いますので、忌憚のない意見をいただきながら、どう取り組んでいくのかを意見交換したいと思います。

今日は、バス事業者は呼んでおりません。呼ぶとバス路線をこうすべきという議論となってしまう、なかなか対応はできないかなと思いますので、そういうことではなく、どういう工夫ができるのかということと一緒に検討したいと思います。

本庁からは交通政策課が来ていますが、彼らも、バス、モノレールをどうするかということ所管しております。様々な切り口での交通というものがあり、本日来ているスタッフの中では答えられない部分もあるかとは思いますが、どんなことをほかでやっているかというようなことも含めて、情報共有できればなというふうに思います。

では、短い時間ですけれども、有意義な会になるように皆様のご協力をお願いして、挨拶にかえさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

3 講話

(1) 花見川区における公共交通について（交通政策課）

【概要】

- ・千葉市の公共交通について説明。市内にはJR線、京成線、千葉都市モノレール及びバス路線がある。バスは主に駅と主要な住宅団地を結んでいる。
- ・市内鉄道駅末端交通手段分担率により、鉄道駅までの交通手段（何で来たか）が分かるが、花見川区内の3駅のうち、幕張駅はバスの比率が低い。これは駅前広場が整備されていないことによる。今年度末に暫定駅前広場ができる予定。なお、始発から10時までの利用者の8割が通勤・通学に利用している。

- ・花見川区の公共交通については、幕張本郷駅は広域的な乗り継ぎ拠点となっている。幕張駅は総武線で唯一駅前広場が未整備である。新検見川駅は臨海部の拠点となっているとともに、さつきが丘団地から京成バスが乗り入れている。西小中台やにれの木台から平和交通も乗り入れているものの、花見川区は全体的に京成バスの路線が主となっている。
- ・明確な定義はないが、鉄道駅から1 km以内、バス停から300m以内を1つの目安とし、「交通不便地域」としている。千葉市域には「交通空白地域」はない。
- ・一般的には、路線バス等が走っていない地域から市街地まで小型のバスで運ぶものを「コミュニティバス」という。利用料金だけでは運行できないため、赤字を行政が負担している。若葉区泉地域コミュニティバスがあるほか、区内でも「花まわる号」がある。主に、バス路線の撤退に伴い、運航を開始した。
- ・通勤・通学者が路線バスを支えているが、少子高齢化に伴い、利用者が減ると、バスは減便、バス路線の廃止につながってしまう。
- ・「地域の足」としては、路線バス、コミュニティバスのほかに、乗合タクシー、福祉タクシー、無償運送（住民による互助、買い物バス、病院の送迎バス）などがある。
- ・千葉市では「地域参画型コミュニティバス」に取り組んでいる。地域でバスを通す場合には、運行協議会を作っていただき、バス事業者や市などが協力しながら、地域の足を確保していくこととなっている。なるべく赤字が出ないように、持続可能な仕組みにしていきたい。

（２）高齢者の交通事故防止（千葉北警察署）

【概要】

- ・高齢者が加害者となる事故が多い。
- ・高齢者の特性として、加齢に伴う身体能力（視力、聴力、体力、判断能力）の低下、一定の病気（統合失調症、認知症など）による影響がある。
- ・高齢者の交通事故事例として、アクセル・ブレーキ・ハンドル操作の誤り、信号機・標識等の見落とし、道路の誤りによるものが多い。

- ・そのため、運転免許証の更新時の高齢者講習制度において、「認知機能検査」を受講する必要があるなど、講習制度の変更がなされた。
- ・交通事故の当事者となる前に、運転免許証の自主返納を検討していただきたい。自主返納は、本人の意思及び本人の申請が必要となる。また、運転免許証の有効期間が切れる前に申請する必要がある。
- ・自主返納した方は、運転経歴証明書の申請ができ、身分証明書として使用できる。また、返納した方は、様々な特典の優遇措置が受けられる。

4 意見交換

○芦ヶ谷区長 2つの講話がありましたけれども、まずはそれに対するご質問から受けたいと思いますけれども、どなたかいらっしゃいますか。

○第10地区町内自治会連絡協議会（蜂巢会長） 単純な質問ですが、運転経歴証明書には有効期間はあるのでしょうか。

○千葉北警察署（稲村庶務係長） 有効期間はありません。住所の変更もできます。以前は有効期限があったんですが今はありません。

○第10地区町内自治会連絡協議会（蜂巢会長） 取ればずっと使えるんですか。

○千葉北警察署（稲村庶務係長） そうです。

○第10地区町内自治会連絡協議会（蜂巢会長） ありがとうございます。

○芦ヶ谷区長 ほかに、講話の内容ではよろしいですか。

それでは、お話を伺ってまいりたいと思います。最初に、花まわる号に関して様々なご意見をいただき、北部エリアの交通の不便なところも感じていらっしゃいます原田会長さんから感想や、花まわる号の取り組みのご苦労などについてお話を伺いたいと思います。

○第22地区町内自治会連絡協議会（原田会長） この交通問題については、通勤・通学に主体を置くか、あるいは高齢者対策としてやるか、その両方をやるというのはなかなか難しいので、両方できれば一番いいと思いますけれども、特に花見川区の場合、北の半分は非常に高齢化が進んでいるわけですね。危機的な状況にあるのは、具体的に言うと花見川団地、塊として見た場合に、花見川団地です。これは、高齢化率は40%を超えています。分譲と、それから賃貸とあるんですが、両方合計して、高齢化率は41%ぐらいになっています。

なおも問題なのは、年少人口、これが極端に少ないんです。率にしたら10%を割って、7.9%ぐらいになっていますね。これがURの団地です。

もう一つは、このこてはし台、横戸台、ここですね。これは、高齢化率は、こてはし台が48%、横戸台が42.4%となっています。その年少率というか、ゼロ歳から14歳まで、中学生までの比率が、これも極端に少なく、こてはし台は7.8%、横戸台が6.4%。

これはどうなっていくかといいますと、今はまだ高齢者がふえているんですけども、やがて、75歳以上の高齢者がいずれも20%を超えているわけですね。こういう方たちは、いずれ亡くなっていくと思います。そうすると、人口減少は極端に、急速に進んでくると思います。

それと、もう一つ、場所としては、柏井町、柏井1丁目、4丁目、このあたりはその次に高齢化が進んでいるんですよ、花見川区の中では。

それで、花まる号については、この高齢者対策として見直したわけです。それで、一番高齢化の進んでいるこてはし台、横戸台、その辺を経由して高齢者の利便性を図ろう。それから、もう一つは、柏井近辺ですね。そういうぐあいにルートの変更をしまして、思い切って、いろいろ意見もあったんですけども、思い切って高齢化したところを通すということをやったわけです。その結果、先ほど言いましたように、路線の距離も短くなって、1便をふやすことができて、11便になった。乗車率も二、三割増えました。

ですから、通勤・通学と両方を考えるとなかなか思い切った対策をとれませんので、これは、高齢者に特化して見直して成功した例に入ると思います。

それで、一番問題は、今、高齢化の問題を話しましたが、具体的に言うと、この花見川団地とこのこてはし台、横戸台、これをどうするかということを実際に考えないといけないと思いますね。これ、全国的に見ても異常なほど高齢化が進んでいるんですよ。しかも子供が少ないので、急速に人口は減ると思います。

それで、バス路線に頼っていたら、これはだめだと思いますので、こてはし台はこの辺からこの辺にイオンさんが来られていますけれども、イオンが移動販売を始めています。こてはし台、横戸台、それから横戸町に来て、鷹の台、千代の台、それから柏井地区も1カ所やっています。この移動販売でやるしかないと思

うんですね。

生活するためにはこの移動販売で必要なものを買う。あとは、病院ですよ。きょう、最成病院の皆さん来られていますけれども、最近、花見川区内の4つの総合病院、最成病院と、平山病院と幸有会と健生病院、この4つ、これが連携できるものは何かというようなことをやっていますけれども、例えば、最成病院さんはバスを出しているんですかね。

○医療法人有相会最成病院総務課（根本課長） はい、バス出しています。

○第22地区町内自治会連絡協議会（原田会長） それを連携して、4つの病院全部を回れるようにするとか。そういうことはこの間もその話がちょっと出ましたけれども、そういうことも考えていただきたい。

それから、もう一つは、移動販売じゃないんですけれども、訪問診療です。それで、各病院はそれぞれその経営上の問題もあって簡単にはいかないと思いますけれども、やっぱり連携してそういう訪問診療を。例えば、花見川団地だとか、こてはし台だとか、そういう拠点に来てもらう。在宅医療じゃなくて、それよりももうちょっと広い範囲で地域に来てもらって、診療してもらう。そういうこともやっていただきたいなと我々は思っています。やればできると思うんですよ。病院というのは、お医者さんもそうですけれども、みんななかなか連携してやるというのは難しいのかもしれないけれども、そういうことをやっていかないとなかなかこの高齢化に対応できないと思いますね。

○芦ヶ谷区長 わかりました。

今のお話で、交通といっても通勤・通学ではなくて、きょうは高齢者ということで絞っていこうというお話でございますが、それはいいと思います。今、いろいろ2点出ましたので、イオンさんのほうの移動販売の取り組み状況とか、評判とか、ご利用者の声とか、もしわかればお願いします。

○イオンリテール（株）（竹原統括マネジャー） 皆さん、おはようございます。イオンリテールの竹原でございます。

今、移動販売のお話をいただきましたけれども、移動販売につきましては、昨年11月から花見川区のこてはし台で実施させていただいております。現状は関東で4店舗、店舗を基点としてやっていますので4店舗。同じ千葉市で言いますと、緑区の鎌取店から基点としてやっているのをことしの7月からさせていただきます

す。

今こてはし台とか横戸台にお伺いしています移動販売車につきましては、弊社の幕張のほうから行かせていただいております、幕張の商品を運んでおろさせていただいております。

実施に当たりまして、こちらの花見川区の地域振興課の前室長様を初め、自治会長様にご支援いただきまして、約10カ月たちましたけれども、地域の皆様からのご評判は非常にいい評判をいただいていると私は思っております。販売員の声を聞いていますと、いつも来ていただけるお客さんはいつも来てきていただいて、それが何よりのご好評をいただいている証拠かなというふうに考えております。

今、こてはし台につきましては、こてはし台の中で3つか、4つか行かせていただいているんですけれども、やはり、こてはし台につきましても、横戸台につきましても、その中の地域は広いので、やはり高齢者の方というのは車をとめて、そこにお越しになるに当たってもやはり200メートル、300メートル以上は歩けないだろう、歩くのは大変かなと思ひまして、本当は、例えばこてはし台の中でも今は公園2カ所にとめさせていただいているんですけれども、もっともっといろんなところにとめられればなというふうに我々も思っているのですが、なかなか、どちらかといいますと、都会に近いですから、なかなか個人様の敷地がなかったりとか、そういうような部分もありまして、そういうところ、とめられる場所がもっともっとふえたらいいなというのを、今、今後新しい地区に行くよりも既存でお伺いしている町のところでもっともっと深く入って行って、させていただければ、例えばこてはし台、横戸台、先ほどおっしゃいました鷹の台の中でも、その隅々まで網羅できるかなというように思っております。そういう形で何とか、今お伺いしている中で深く進めたいなというふうに思っております。

以上です。

○芦ヶ谷区長 ありがとうございます。

あと、イオンさんのついででは、花見川団地とメッセのほうとつないでいるバス、お買い物でやっていますけれども、あれの状況はどんな感じでしょうか。

○イオンリテール（株）（今泉） 私、イオン地域エコシステムを担当しております今泉と申します。よろしくお願いいたします。

今、区長からいただきました花見川団地から現状、美浜区のイオンモールって

幕張新都心ですね、大きな店のほうにやらせていただいているんですけども、ここの花見川団地とつなぐバスは、去年の4月29日から運行のほうをさせていただきまして、約1年半ぐらいたっている状況でございます。おかげさまで、花見川団地は、今、ルートにつきましては、現状、京成さんのバスルートを使わせていただいて、花見川団地周辺のバス停、約6カ所、7カ所ぐらいのあたりを使って、お店のほうまで行くバスになっております。

おかげさまをもちまして、花見川団地につきましては、URさんの中でも全国でも2番目、3番目ぐらいかなり大きな団地になっておりますので、かなり多数のお客様がいらっしゃる中で、高齢化というところもありますので。花見川団地がとにかく大きな敷地になっておりますので、現状はなかなかまだバス停も限られた中でやっておりますので、ちょっとバス停まで行くのが、大変だという課題も抱えているところでございます。

ただ、去年4月に始まってから、おかげさまをもちまして、運行状況のほうにつきましては、去年4月に始まったときから比べますと、月動によっては約2倍ですね。200%ぐらいのご利用をいただいているところでもあります。乗られている方のお話を聞くと、割と、当初運行が始まったところから比べると、お友達同士を誘い合わせていただいて、楽しく外出の機会がふえているような話も聞いておりますので、そういう意味では、少し地域の皆様の外出の支えになっているのかなという認識はしております。

○芦ヶ谷区長　ありがとうございました。

移動販売の件と、幕張新都心とのアクセスについては、コミュニティーのツールとしても利用されているということでございましたけれども、あともう1点、先ほど会長さんのお話でも病院利用でのということで、最成病院のほうでどのようにお客様を輸送しているのかという状況をお話しいただければと思います。

○医療法人有相会最成病院総務課（根本課長）　最成病院総務課の根本と申します。よろしくお願いいたします。

最成病院では、病院には関連施設がありまして、それを利用される方のために無料の送迎バスを運行しております。一番最寄りの駅の八千代台駅、こちらに向かうコース、あとは花見川団地内を回るコース、あとは、さつきが丘団地、にれの木台を経由してJRの新検見川の駅に向かうコース、あとは千種町や、こては

し方面を経由して大和田の駅のほうに向かうコース、この4つのコースを平和交通さんのほうにお願いをしまして運行しております。

○芦ヶ谷区長 結構、利用者さんは多いんですか。

○医療法人有相会最成病院総務課（根本課長） そうですね。コースによっても違いますけれども、病院や関連の施設がありますので、それなりに患者さんは乗っておる状態です。

○芦ヶ谷区長 わかりました。

老人クラブの工藤さんのほうは、今、冒頭で警察のほうで免許証返納の話がありましたけれども、老人クラブでのいろいろな雑談の中で、そろそろ返そうかなとか、そういった声がありますでしょうか。

○こてはし地区老人クラブ連合会（工藤会長） その前に、私、お聞きしたかったのは、今の交通のあれで、市内の鉄道駅というデータが出ていましたけれども、犢橋地区の奥部は、我々は八千代台とか、勝田台とか、大和田の駅を利用する。あるいは銀行にしてもお店にしても、完全に京成の向こうの駅を利用する方が多いですから、我々高齢者も含めて。そちらへ抜けるバスの利用者状況とか、その辺はつかんでいませんね、今の資料ですと。千葉市内だけですものね。

○交通政策課（佐々野課長） そうですね、駅の利用は市外ということで。

○こてはし地区老人クラブ連合会（工藤会長） そうですね。

○交通政策課（佐々野課長） バスは、どこのバスもそうなんですけれども、路線ごとの利用状況というのは教えてはくれないですね。ただ、思うに、時刻表を見て、朝、例えば1時間に6本も8本もあるようなところは、それなりにお客さんが乗っているのかな。朝から、1日ずっと1本、1本、1本というのは、どちらかというと利用が少ないのかなというような感覚です。

こてはし台さんの場合は、一番最初は稲毛のほうに行かれていたんですかね。何かいろんなルートがあるなというのは感じております。ですので、全部薄くなっちゃっているのかなという感じも見受けられます。

以上です。

○こてはし地区老人クラブ連合会（工藤会長） 行政の場合は、結局千葉市内、花見川区もそうですけれども。ただ、住民は余りその行政の線引きというのは関係ないんです。生活として動き回る場合には、便利な最寄りの駅というと八千代

市だったり、四街道市だったりするわけです。ですから、この調査も結構なんですけれども、やっぱりその辺もつかんでおく必要、あるいは行政同士の情報交換は必要じゃないでしょうか。

○芦ケ谷区長 それは、おっしゃるとおりです。区にしても、中学校区等の稲毛区と花見川区が違っていたり、勝手に役所が線引きしたおかげで、今度は市が違ったりするとごみの袋が違うとか、いろんなことでご不便をかけているところについては、行動範囲は、全然、行政の範囲と違いますので、おっしゃるように、その最寄りの駅との情報、八千代市も、今度、市長が変わりまして、連携がとれるようになっていきますので、そういう情報共有をしたいと思っております。

○こてはし地区老人クラブ連合会（工藤会長） それは、日常感じていることですけれどもね。

それから、免許証の返納の件ですけれども、老人クラブの場合は、花見川区でも老人クラブ連合会に入っていないクラブもありますから、ただ、入っているクラブだけで言いますと、こてはし地区だけで14クラブ、あと、検見川地区が5クラブくらい、幕張地区は入っていないんですけれども。

ただ、老人クラブに入っている方とか、我々が接している方は、いずれもアクティブな方が多いんですよ。引きこもりとか、そういう方はクラブに入りません。ですから、当然、免許証も必要ですし、運転なさっている、八十幾つでも。90近い方でも運転されている方が多いですし、余り話題に乗りませんね。ただ、出してみてもいいですけれどもね。

○芦ケ谷区長 先ほどの北署さんの報告ですと、結構生々しいようなお話もありますけれども、実際当事者の場合ですと、ちょっと強烈かもしれませんけれども、徐々にですけれども、そういう傾向があるということですので、何かのときにはそういうことも頭に入れておいていただければと思います。

では、あと、いろいろな福祉関係でいろいろ回っている中で、田中さん、何かこういうことで不便だなとか、ここがあったらいいなみたいな声がもしあれば、教えてくださいませんか。

○千葉市生活支援コーディネーター（田中） 今の返納のお話で、あんしんケアセンターさんもいらっしゃっていますが、ケース検討などでは話題に上がることがありますが、ただ、ご本人に免許証を返していただいた後の生活を考えると、

先ほどもお話に上がりました買い物、通院、その他の利便性がやはり問題になってきて、ご家族と、若い世代と一緒に住んでらしても、若い世代は昼間いらっしやらないというような問題があると、なかなか免許を返した後、ご本人やその配偶者の方がおうちに引きこもる状態になっていられるようなケースも見受けられるので、一概に返納を勧めるということが、なかなか介護とかの現場でも難しいという、今、状況があります。警察の方のお話は、非常に身に詰まるところではあるんですけれども、その本人様のご生活を考えると、というところで、厳しい選択を毎回迫られているというような形になっているのが現状だと思います。

あと、運行のほうでは、先ほどイオンさんのバスの話がありました。もう1軒区内にあります大きなスーパーさん、ヨーカドーさんもバスを出されていたりということで、今、そういうある地域は比較的バスが動いていたりですとか、あとは自治会や、小さな活動単位ですけれども、互助の形ですが、お互い助け合ってボランティアグループやNPOをつくられて外出支援をされているグループも、少しずつですが出てきているような状況です。

ただ、やはり絶対数としては、やはり区の北側の地域を網羅するには、やはり難しいというのが現状だと思います。

あと、南側の鉄道沿線の地域は、比較的鉄道の駅、鉄道という言い方もどうかと思うんですが、鉄道の駅への利便性があるのですけれども、やはり平らではないんですね。幕張地区は比較的平らな、平地の地域が多いので、先ほどの図に顕著に徒歩の方が多いというんでびっくりしたんですけれども、ほかのエリアですと、やはり坂が多くて、バス停や駅になかなか高齢の方が行けない。近くても行けないというような問題も会議などでは出てきております。

以上です。

○芦ヶ谷区長 冒頭の交通のほうの資料で、交通不便地区ということで、駅の周りは1キロぐらいは歩けるでしょうとか、バスは300メートルというのがありますけれども、一般の方の距離に、それに高低差だとか、いろいろなことが入ると、目の前にバス停があればいいけれども、もう300メートル離れたら使わないよというようなことがどんどんふえてきちゃうかなという中で、まるっきり過疎地であれば、先ほどの資料のようにマイカーをシェアして、そういうタクシーにかわってやるような制度とか、あと、特区ということで、観光なんかでしたらそうい

うマイカーを使うというような選択肢もあるみたいですけども、花見川区の場合にはまだタクシーもバスもあるので、今のところそこまでいっていない。ただ、今のようなお話で高齢化がまた、ますます、300メートルだととてもバス停まで行けないというときに、では、どうするかというようなお話が出てくるんだと思います。

あとは、せっかくまた民間の方で来ていますけれども、自動運転なり、いろいろ取り組んでいます日産のほうから、誤作動とか自動ブレーキとか、そこら辺の今の状況なんかについてお話しできればと思いますが。

○千葉日産自動車（株）幕張店（石井店長） こんにちは。千葉日産自動車幕張店の石井と申します。よろしくお願いいたします。

日産自動車のお話になってしまうんですが、自動車が世に出まして利便性ですとか、快適性、それから移動範囲が非常に拡大したという意味では、やっぱりメリットの動きで、今現在来ておりますが、それに伴っての、今、先ほど来お話のあったやはり交通事故、それから環境問題等々ある中で、日産としての取り組みを何点かかいつまんでお話しさせていただきますと、まずは、日産自動車として今取り組んでいる部分では、まず自動ブレーキ、こちらをまず完全に標準化という意味で。特に一番、手が届きやすい、身近なファミリーカーから順次拡大させていただいて、おおむねの軽自動車から2000ccクラスまでのファミリーカータイプ、この辺のはもうほぼ標準装着という部分と、それに伴って事故というのは、まず日産自動車でも統計をとっている中では、9割がヒューマンエラーということで、人による誤作動によっての事故、これが非常に多いものですから、それをある程度車が補助をしてあげるよという部分で自動ブレーキだったり、それから先ほど来、千葉北警察さんでもあったアクセルとブレーキの踏み間違い、こちらのほうもおおむねのコンパクトカーでしたり軽自動車、こちらのほうには既にほぼ100%装着という形で取り組んでおります。

ただ、テレビ宣伝等々でもありますけれども、完全にきっちりとまるよという認識を得られているお客様も非常に多くて、あくまでも、他メーカーさんもそうなんですけれども、フロントガラスについているカメラで障害物だったり、人を認識したりという格好でとまります。ただし、カメラですから人間の目と同じでして、当然、太陽の逆光だったりだとか、大雨で前が見えない状態だったりとか、

そういったケースですと実際には作動しないというのもございます。ですから、今、先ほど冒頭にお配りさせていただいた資料でお客様と確認しながら、安全装置についてはいますが、こういったケースでは作動しないよとか、それから作動できる速度、こちらもある程度重要な部分になっております。この辺はお客様に認識していただきながら、ただし、安心、安全に使っていただけるようにという意味で、日産としても取り組んでおります。

私どもの販売エリアとして、イオンさんのほうから北は犢橋ですとか花見川団地さんとか、その辺も多くのお客様がうちどもの日産をご利用いただいております。先だってもあったのが、かなり年配のお客様なんですけれども、そこの息子さんのほうから、ぜひ安心・安全な自動ブレーキだったり、踏み間違え防止がついた車をご提案していただきたいというようなお話がありまして、そこで親御さんとお子さんとお見えになって、いろいろ説明しましてご注文いただいたという経緯があります。

昔は燃費ですとか、環境性能というのが売りでどのメーカーもやっておったんですけれども、今はお客様のほうから安心・安全な機能のついた車という形で来るケースが非常に多いです。

ですから、きょうの議題の中では自主返納ですとか、いろいろな部分の中では、ちょっと私どもは販売しているほうなので何とも歯がゆい部分ではあるんですけれども、逆に、少しでもそういった部分では助けになればということで、安全機能を今後も拡充させていただいて、お客様に提供していただければというような形で活動に取り組んでおります。

以上です。

○芦ヶ谷区長　ありがとうございます。

今のお話で何かご質問はありますか。幾らぐらいからになるのかとか。大丈夫でしょうか。

それでは、民生委員の花嶋さんのほうからいろいろ地域の見守りとか、いろいろお話なんかで、子供さんの交通安全とか、そういったことも、もし何かご意見がありましたら。

○花見川区民生委員・児童委員協議会（花嶋会長）　今の日産さんじゃないけれども、誤作動がないような車をつくっていただきたいと思うし、また、カーナビ

で進入だとか、路線というか車線の反対側に行ったら何か警告を出してくれるとか、そういうものはだめでしょうか。

○千葉日産自動車（株）幕張店（石井店長） ありがとうございます。

今、進入禁止ですとか、誤発進という部分では、もう既にうちども、車名を申しして申しわけありませんが、日産ノートですとか、セレナ等の主要車種、こちらに関しては、進入禁止、フロントガラスについたカメラで逆走を検知します。カーナビではないんですけれども、インフォメーションのモニターがありますので、そこにちゃんと警告が出るようにしております。全車種にどんどん今後は採用されていくと思いますので、よろしくお願いします。

○花見川区民生委員・児童委員協議会（花嶋会長） 値段も抑えた車にしていたいて。

○千葉日産自動車（株）幕張店（石井店長） 値段的には、自動ブレーキ等々がついても、おおよそ軽自動車クラスで5万円前後です。タイプが何タイプかあります。軽自動車タイプですと、簡易的なものになりますので、大体5万円。カメラ方式を使っているノートクラスとかその辺ですと、大体おおよそ10万から15万程度です。基本的には踏み間違い防止と大体セットになっておりますので、その辺でひとつご利用いただければと思います。

○花見川区民生委員・児童委員協議会（花嶋会長） それと、警察のほうで、事故防止のためには返納ということが一番いいのかもしれませんが、返納した場合に、今、田中さんがおっしゃったとおり、介護のほうに回る率が多いような感じを聞いているんですけれども、その辺は、やっぱり多いですか。

○千葉市あんしんケアセンター花見川（吉田所長） そうですね。あんしんケアセンターですが、実際にその現場のほうに私たちは声を聞いていると、やはり介護にも頼りたいんだけど、介護認定を受けられるか、受けられないかという問題があるので、比較のお元気な方だと認定がとれないとサービスに結びつかないというのと、まだまだそこまでやりたくないよという人がいます。実際の声として、車を持っている方の声を聞くと、やっぱり病院、買い物に行けなくなるからということをやったりとか、バスになると手荷物を持って歩いて帰れない、バス停まで行くのが大変になってきているというようなことで、そこで認定がとればいいんですが、難しいところがありますね。

○花見川区民生委員・児童委員協議会（花嶋会長） そうなんですよ。

○千葉市あんしんケアセンター花見川（吉田所長） あとは、実際に、事例で、返納とか認知症にかかわるところで、センターのほうで最近2件ほど続いていることがあります。車で出かけて帰り道がわからなくなって保護されて、結局、身元がわからないので情報を提供してほしいとか、車を持っているんだけどもレンタカーを借りて、返す場所がわからなくなって、そこに職務質問をされて身元が判明したということで、いずれも認知症の疑いがあるんですが、はっきりと受診をしていないというところなので、あくまでも疑いということなんですが、なかなかその当事者さんは自覚がないので、受診に結びつかない。

それと、やはり精神科とか認知症疾患センターって言葉を聞くと、やっぱり拒絶をするというんですか、抵抗感があるので、脳神経外科とか、今は心療内科とかメンタルクリニックとは言っているんですが、結局は精神科だろうということで、そこまで行くのがなかなか大変ということで、我々も足しげく通ってうまく本人を誘い出すとか、ご家族さんにも協力してもらってというところがあります。

一つ成功例として、自主返納された方が、閉じこもり気味だったので、たまたま介護保険を利用できる方だったので、福祉用具で電動カートって電気で動く三輪車があるんですが、それを使えるかどうか判断をしてもらって、認知症のない方だったので操作性に問題はないということで、それを使うことによって自分でお買い物ができたりとか、楽しみがふえたということもありました。

そんなところでよろしいでしょうか。

○芦ヶ谷区長 わかりました。

やはり車が使えなくなると、やっぱり個人の自由な動きと、今のような手荷物。あと、バス停とか、バスのダイヤで自分が合わせなきゃいけない、遠いというようなことで敬遠されるということですけども、今後はそういう自動運転になる前の手段としては、先ほど会長さんが言っていましたけれども、事業者さんの動いているバスとか、イオンの動いているバス、花まる号とか、そういういろんな事業所が違うんだけど、それをどこかでお見合いできて途中で乗りかえるとか、途中でおろすということは今はできないんでしょうけれども、途中でおろすなんてことができるようになると、京成とかシーサイドバスに税金を使ってほとんど空気を運ぶみたいなことは非現実的だけれども、今、既に回っている

事業者さんのバスをうまくつなぐとか、そういう法律の問題とか、いろんな課題はありますけれども、そういうことが可能であれば、それほど初期投資がなくても何かできるのかなと思います。

あと、区のほうは、例えばそういう時間待ちするところに花見川団地の空きスペースか何かを、昼間は認知症カフェか何かやってお茶飲んでいたり、そこで花まる号やイオン、最成病院などのバスが来たら乗りかえるといったことが可能であれば、そういう足の確保という部分ができるかもしれない。

あと、マイカーを持っている方は、車検とか、車の費用を既に毎月お支払いしているわけですね。運転免許証を返納したことによって浮いた金額をタクシーやバスなどに振りかえるということも可能なのかなと思うんですけども、そこら辺はいろんな個人の行動の制約もあれば、事業所さんとの関係、今の法律の枠組みの中ということの課題がありますけれども、道路を広げてバスを通す、モノレールを入れるなんてことはもうとても難しいですので、現状のある交通手段をうまく有効に使えるようなもの。一番出ていたのが買い物に行きたい。あとは病院とか介護施設。あとは地域包括なんか見ますと、なるべく在宅で介護をするとか、そういうことになると思うので、ドクターがそこに行く。

花見川団地も今は事業所さんがとめる駐車場が足りないということで、URのほうで一部ふやしたりなんかしているんですね。そういったニーズも踏まえて、今の利用者、区民の要望にかなった交通手段、交通をいろいろ比べて、今後、通勤・通学の方が人口が減りますと、ドル箱路線の駅と団地をつなぐバスも兼任したり、最終的にはその路線もなくなっちゃうなんてこともあるかもしれません。その部分でローカル路線はいかなるときにもシステム自体が成り立たなくなってしまうかもしれませんので、それはいつになるかわかりませんが、やっぱり地域で支え合ったり、企業、事業所さんとも連携をしたり、病院との連携とか、そういうことを踏まえつつ、あと、勇気をもって免許証も返していく。

それで、あとはご家族とか兄弟が多い昭和の時代でしたら、ご近所で、「じいちゃん、いいよ。俺、運転するよ」とか、そういう手がいっぱいあったんでしょうけれども、今は独居の方だとか、家族が全国に散り散りになったりして、なかなかそういう方がいらっしゃらないご家庭も多いですから、そうすると、地域で支えなきゃいけないということになりますので、そこら辺の取り組みが大変なの

かなというふうに思います。

お時間もだんだん近づいてきたんですけれども、では、最後に、金子会長から
もご意見ありましたら。

○第7地区町内自治会連絡協議会（金子会長） 地区連の話で出た話なんですけれども、朝日ヶ丘、あそこは坂道が非常に多いんですよね。あそこの年寄りが一番困っているのは、坂なんです。そういう地域性に合った対応も必要になってくる。それは、じゃ、今度話してくるよという話にはなったんですが、坂をなくするということはできませんけれども、あそこの道が狭くて、一体どうするんだよというのは一つあるんですけれども、自治会としては大いに、大変な問題だということに今なっています。

それから、私事で申しわけないんですが、私の妻がこの間足を折りました。車を運転できなくなりまして、いきなりもう要介護になって、私がやっているんですけれども、どこに行くにも妻の車に乗っていったものですから、今、全く免許証を返納した状態と同じになっちゃったんです。やっぱり病院に行くのに大変お金がかかる。タクシーで行かないといけないので。バスに乗って行くわけにいかないし、今のところ非常に困っているんですね。やっぱりそういういきなり突発的に出てくるやつもありまして、これは治れば済む話なんですけれども、なかなか大変だな。免許証の返還と簡単に言うけれども、これはえらいことだというふうに今自分でよくかみしめております。

○芦ヶ谷区長 今のお話は、本当にどこでもあるケースのお話ですね。ふだん、足としてパートナーとか、子供さんを当てにしていたのが、急に何かのことでなくなった場合というのは、もうすぐに足が困ってしまう。やっぱり病院とかですかね。買い物の交通ですかね。

自転車で行くというのはありますけれども、高齢者の自転車はまた大きな問題で、事故につながりますので、なるべくなら公共交通ということでしょうけれども、坂と言うと、電動アシストの自転車や、先ほどの三輪車などが便利ではありますが、その場合にまた道路が狭くて危ないとか、いろんな問題が出ると思いますけれども、花見川区は道路事情が悪くて、都市計画道路の整備率も一番区内の中でも悪いと思います。そうした中で、高齢者も多いですから、それを何とかやるには、全体で工夫して取り組んでいかなきゃいけないということでございます。

きょうは地域の方もそうですし、あと、介護とか病院、また、民児協とか老人会、あと企業とか幅広い方々が来ていただいて、交通を、大きな問題ですけども、ちょっとした議論のきっかけになって、またいろんなハードルがあると思いますけれども、それを結びつけて、区のほうと、市のほうも、特に市長とマニフェストの中にも入っていますけれども。

市長とこの間会ったときに、その交通の問題が書いていますけれども、「花見川区はそれが厳しいんですよ」と言ったら、まさにこのマニフェストは花見川区をイメージしている。超高齢者社会への対応として、交通不便地域の方々の医療、買い物などの地域の足の確保と支援策を検討する。検討ですから具体的にどうするかというのは、市長は今年当選して、まだ3年以上ありますから、それはどういう取り組みにするかというのはありますけれども、特に花見川区を意識してのマニフェストだというふうに聞いておりますので、これをきっかけとして、市としてもどういう形でできるのか。

あと、これと、今度は子供さんの送迎の問題の足というのもありますからね。そういう送迎バスがもし出るのであれば、それと高齢者の足の問題と何かリンクできないかとか、いろんな考え方ができると思いますので、今後、交通問題、あと高齢者の問題、2つを花見川区の大きなテーマとして、また引き続き取り組んでいきたいと思います。

お時間が大体12時になりましたのでまとめたいと思うんですけども、まとめた内容を後ほど紙にして、皆様方に送付なり、来ていただいたときにお渡しするなりしたいと思います。それをもってきょうの対話会まとめという形にしたいと思います。

最後にどなたかいらっしゃいますか。

○第22地区町内自治会連絡協議会（原田会長） イオンさんのバスというのは、団地とどこを結んでいるんですか。

○イオンリテール（株）（今泉） 現状は、今、京成さんで走っている団地東口、西口の団地のぐるっと回るところです。そこから千葉幼稚園のほうを通りながら、最終的にはイオンモールの幕張新都心店のお店にそのまま真っすぐ行くという形です。

○第22地区町内自治会連絡協議会（原田会長） それを決めるに当たって、花見

川の団地の中の商店街がありますよね。あの辺、シャッターがいっぱいふえてきているんですけども、それとの絡みはないんですか。ただでさえ団地内で買い物しないのに、ますますそっちに流れるということはないですか。それを自治会がオーケーしましたか。その辺、どういう経過でそうなったのか、何かおわかりだったら。

○イオンリテール（株）（今泉） 貴重なご意見をありがとうございます。今のお話については、社内できちんと確認してからご返答という形でよろしいでしょうか。

○第22地区町内自治会連絡協議会（原田会長） わかりました。

○芦ヶ谷区長 では、お忙しい中、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

これをもって花見川区区民対話会を終わりにしたいと思います。

ご協力、ありがとうございました。

5 まとめ

- （１）交通問題については通勤通学と高齢者の移動と２つあるが高齢者に絞った議論が重要である。
- （２）買い物や病院に行くにもマイカーを手放せないので運転免許証の自主返納は難しい。
- （３）地域によっては、坂がありバス停に行くのも大変なところもある。平坦な地形でないと徒歩移動は制約がある。
- （４）幕張新都心と花見川団地を結ぶ買い物バスや移動販売車は、コミュニティの役割も担っている。
- （５）車の買い替えの際は、自動ブレーキなど安全性能の高い車を選択するケースが増えている。
- （６）病院や福祉施設の送迎バスを一般利用することも法的な問題もあると思うが、検討する必要がある。

6 閉会